



# まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう 第24回日本高齢者大会開かれる

9/13(月)～14(火)にかけて第24回日本高齢者大会が茨城県水戸市で開催されました。和歌山県から19名が参加し、うち医療生協から3名が参加しました。1日目は茨城大学で13の学習講座、19の分科会がもたれ、学びとともに全国の高齢者運動の交流が各会場で行われました。後期高齢者医療制度・広域連合、国保と医療保険の一元化の学習講座に参加した和歌山の代表は、「厚労省の高齢者医療新制度の内容が話され、大部分が国保に加入するものの、財政運営を別建てにし、後期高齢者医療制度の骨格は残された新制度であることがわかった。高齢者医療制度の問題を国保の問題と抱き合わせた運動が必要との話が印象に残った。」と述べました。



2日目は、県立武道館で全体会が開かれ、基調報告、「後期高齢者医療の即時廃止を求める」特別決議や「連帯しよう!日本中の高齢者と家族たち!囁きを怒りに!怒りを要求に!要求を行動に!家庭から近隣から町から村から孤立の壁を破って大同団結した高齢者の底力を発動しよう!」と大会アピールが採択されました。記念講演は「人にいのち、音にもいのち」のテーマで作曲家の池辺晋一郎氏が講演しました。この大会には、全国からのべ4513人が参加し閉幕しました。



## 「75歳は悲しい誕生日」後期高齢者医療制度はすぐに廃止せよ!!

### 昼休みデモと集団不服審査請求書提出



猛暑の日々が続いている中、後期高齢者医療制度即時廃止を求めた昼休みデモが9月6日(月)行われました。

政府が発表した後期高齢者医療制度に代わる新制度案中間まとめによると、高齢者を国民健康保険に加入させ、65歳以上は現役世代とは別枠で運営するというもの。高齢者に負担増の痛みを強いることで医療にかかりにくくさせる非人間的な仕組みであり、高齢者医療制度審議委員からも批判の意見が出されているそうです。

高齢者が安心してかけられる医療制度を求めて、和歌山県社会保障推進協議会、年金者組合などを中心に100人近くが和歌山市役所前に結集しました。「高齢者の人権を踏みにじる後期高齢者医療制度は廃止せよ」「差別の根幹を残す新しい制度案は撤回せよ」とシュプレヒコールして和歌山県庁までデモ行進をおこなった後、27件の後期高齢者医療不服審査請求書を県当局へ集団提出しました。その後広域連合に出向き、即時廃止を求める要請書を提出しました。

2010年9月6日

和歌山県知事  
仁坂 吉伸 殿

和歌山県社会保障推進協議会  
代表幹事 松橋 利理  
代表幹事 井戸 茂樹  
代表幹事 大森米三郎  
代表幹事 武内 正次  
代表幹事 中 玲子

全日本年金者組合和歌山県本部  
執行委員長 中谷 吉治

#### 後期高齢者医療制度に関する要請書

謹啓

初秋の候、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、政府が後期高齢者医療制度にかわる「新制度の中間とりまとめ」を発表しました。それによると、高齢者の大多数を現役世代と同じ国民健康保険（国保）に加入させる一方で、財政運営については現役世代とは別に都道府県単位で行うとしています。高齢者を囲い込み「別勘定」にすることは、高齢者に負担増の痛みを強いることによって医療にかかることをあきらめさせ医療費の抑制を図るという非人間的な仕組みです。まさしく現行制度の根本欠陥を引き継ぐ制度です。新しい制度を審議している高齢者医療制度改革会議においても委員から厳しい批判が出ていると聞き及びます。

こうしているうちにも毎日75歳の誕生日を迎え、差別医療に悲しみ、憤りを持つ高齢者が増え続けています。後期高齢者医療制度はいますぐ廃止すべきです。

本日多くの高齢者が不服審査請求を提出しました。貴職が高齢者のくらしと心情に寄り添い、「後期高齢者医療制度の即時廃止」という私たちの願いが早期に実現できるよう国に私たちの声をお届け下さるよう要望します。また、受診の機会を奪う資格証明書を発行しないように措置して頂けるよう要請致します。下記事項についてご検討頂きたく要望致します。

謹白

記

1. 受診の機会を奪う資格証明書を発行しないようにして頂きたい。
2. 後期高齢者医療制度をただちに廃止するよう私たちの声を政府に届けて頂きたい。

以上